

2020年度の全国大会はオンラインで自由論題報告が実施されました。実施要領と報告タイトルを記録として掲載します。

2020年5月18日

## 2020年度産業学会全国大会（研究会）「自由論題報告」実施要領

2020年度産業学会全国大会実行委員会

委員長 塩地 洋

委員 杉浦 勝章

中山 健一郎

佐伯 靖雄

中道 一心

2020年度産業学会全国大会（研究会）自由論題報告はオンラインで実施いたします。ここでの報告は正式な学会報告の業績であり、自由論題報告を行った会員に対して2020年度に限り、『産業学会研究年報』第36号への優先投稿権を付与します。

このような形態で実施する理由は、これまで産業学会は全国大会（全国研究会）でひろく会員から自由論題報告を募り、そこでのディスカッションを通じて、それぞれの研究をブラッシュアップしてきたと認識しているからです。緊急事態においても、会員同士のディスカッションの場を設け、それを経たうえで研究年報に投稿いただくというプロセスを堅持したいと考えます。

2019年6月の理事会決定では、2020年度より自由論題報告について編集委員（理事）が投票を行って優先投稿権付与を決定することになっていましたが、2020年度に限り自由論題で報告を行った報告者全員に優先投稿権を付与します。「優先投稿権」とは、論文投稿者が持つ「初稿の査読においては掲載不可にならない」権利のことである。著者は初稿査読において修正を求められた場合、二稿を提出して再度査読を受けることができます。査読者は、再度の査読において掲載可、掲載不可の判断を行います。

## 2. 自由論題報告の会員への共有

報告資料は無料大容量ファイル転送サービスを介して、会員が報告資料をダウンロードする方法で共有します。会員は質問・コメントを Google フォーム上に記入し、それに対して報告者は回答資料を作成します。その回答資料は無料大容量ファイル転送サービスを介して、会員がダウンロードする方法で共有する。

大会実行委員会は報告資料・回答資料の集約、質問・コメントの整理、会員への連絡（ホームページの更新、メールの配信）を行います。学会からのメールをご確認ください。

なお、報告資料は報告者にコピーライトがありますので、報告資料の利用は質問・コメントのための閲覧に限ってください。

加えて、①報告者が研究年報への投稿に向けたブラッシュアップに貢献する建設的な質問・コメントを作成いただくこと、②報告者がすべての質問に回答することができないことをご理解いただけますようお願いいたします。

### 一連のプロセス

- (1) 学会事務局が 6 月 14 日までにホームページ上に報告資料をアップしている URL を記載します。そのうえで会員にメールで連絡し、報告資料をダウンロードするときに必要なパスワードも併せて連絡します。
- (2) 会員は報告資料をダウンロードし、閲覧したうえで、質問およびコメントがある場合、6 月 21 日までに Google フォーム「2020 年産業学会自由論題報告（質問・コメント）」にその内容を記入します。  
※サンプル  
[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdxY\\_ILTaJJyTPoLJzrDgA9u\\_Ss\\_xPCxUkqsz\\_JMfr7SpC-Gxw/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdxY_ILTaJJyTPoLJzrDgA9u_Ss_xPCxUkqsz_JMfr7SpC-Gxw/viewform)
- (3) 学会事務局が報告ごとに質問・コメントを整理し、6 月 25 日までに報告者に連絡します。
- (4) 報告者は回答資料を作成し、学会事務局が 7 月 31 日までにホームページ上に回答資料をアップしている URL を記載します。そのうえで会員にメールで連絡し、報回答資料をダウンロードするときに必要なパスワードも併せて連絡します。
- (5) これ以降のディスカッションは、会員間のやりとりに委ねます。

### 3. 自由論題報告の報告資料の形式

報告者には基本的に以下の2つのファイル形式で報告資料・回答資料を作成いただきます。

- (1) MP4 形式の動画（①Zoom などの web 会議サービスを利用した動画作成、② PowerPoint や Keynote などのプレゼンテーションソフトで作成された音声付アニメーションの動画ファイル化を想定）
- (2) PDF 形式（①PowerPoint や Keynote などのプレゼンテーションソフトのノート欄を活用し口頭発表の文字化、②word などのワープロソフトで作成した論文の PDF 化を想定）

**※上記と異なる形式で作成される場合もあります。**

#### お問い合わせ先

学会事務局

下関市立大学 杉浦 勝章

sugiura@shimonoseki-cu.ac.jp

大会実行委員

同志社大学 中道一心

nakamichi.kazushi@gmail.com

以上

## 自由論題報告

1. 畑中艶子（国際ファッション専門職大学）「ファッション関連企業のSDGs に向けての未来戦略—ファーストリテイリングの事例—」
2. 北嶋守（機械振興協会経済研究所）「日本における介護ロボットの普及課題—ビジネス・エコシステムの視点に基づいて—」
3. 十名直喜（名古屋学院大学）「現代産業論への視座と半世紀の挑戦：『人生のロマンと挑戦—「働・学・研」協同の理念と生き方』十名[2020.2]刊行をふまえて」
4. 山本匡毅（相模女子大学）「周辺地域における航空機部品受注と次世代航空機への対応—秋田県を事例として—」
5. 佐伯靖雄（関西大学）「テスラの事業戦略研究・序説」
6. 岸田淳（法政大学・院）「日本の法人向け自動車販売における企業間関係について」
7. 近藤信一・三好純矢（岩手県立大学）「地方中小企業におけるデザイン経営に関するモデル構築—岩手県内中小企業における実態調査からの考察—」
8. 杉田宗聡（阪南大学）「アパレル産業におけるオーダーエントリー・システム」
9. 太田志乃（機械振興協会経済研究所・名城大学）「カーエレクトロニクス部品の国内需要に関する試算—産業連関表におけるデバイス製品からの推計—」
10. 広崎心（日本経済大学）「中小製造業のベトナム進出における地方自治体の役割について—レンタル工場の活用を中心として—」

|